



あなたは、どんな挑戦をしたいですか？

No.12

海洋高校 新聞広報

令和3年(2021年)6月26日(土) 京都新聞 「丹後中丹」面

令和3年(2021年)6月23日(水) 毎日新聞 「京都 丹波・丹後」面

実習船「かいよう」からイワガキを運び出す生徒たち。舞鶴市下安久の府漁協で



舞鶴 荷降ろし、選別体験

海洋高生、イワガキ出荷

府立海洋高(宮津市)の海洋科学科2年生18人は22日、舞鶴市下安久の府漁協でイワガキの出荷実習をした。

学校近くの栗田湾で養殖してきた440個を実際に出荷した。先輩から後輩へと引き継ぎ、5年以上かけて育ててきた。学校から実習船「かいよう」で府漁協に到着すると、生徒は早速荷降ろし。重さごとに仕分けする選別機にかけると、1kg以上ある「大物」もあった。山本拓澄さん(16)は「イワガキの付着物の除去が難しかった。出荷し、お客さんに買ってもらうことがうれしいです」と話していた。

【塩田敏夫】

海洋高生のイワガキ出荷へ

2年生18人 4〜7年育てた445個



育てたイワガキを船から降ろす生徒たち(舞鶴市下安久・府漁協舞鶴地方卸売市場)

宮津市上司の海洋高海洋科学科の2年生18人が、授業で育てたイワガキを府漁業協同組合舞鶴地方卸売市場(舞鶴市下安久)に運び込んだ。生徒らは機械で大きさを選別し、出荷作業について学びを深めた。

同科は2013年度から、地元水産業の学習として栗田湾で

生徒らは22日、4〜7年かけて殻付き重量約350〜450gに育てた計445個を実習船「かいよう」で市場に搬入。イワガキが詰まった箱を降ろし、府漁協職員から説明を受けながら機械で重さを量って選別した。イワガキは紫外線で殺菌した水槽に1日漬けて洗浄し、首都圏や京阪神に出荷される。眞野陽太さん(16)は「先輩たちが何年もかけて育ててきたイワガキ。出荷までの作業は大変だったが、無事に市場に出せてうれしい」と笑顔を見せていた。

(明石陸)

令和3年(2021年)6月26日(土) 読売新聞 「京丹後丹波」面

大きくてプリップリ 海洋高出荷

府立海洋高(宮津市)は、学校近くの栗田湾で育てた岩ガキの出荷に取り組んでいる。



実習船から岩ガキを降ろす生徒(舞鶴市で)

ガキをいかだで4〜7年かけて育て、出荷・流通するまで学習。

22日は2年生18人が実習船「かいよう」で、舞鶴市の舞鶴地方卸売市場まで乗り付け、ケースに入れた岩ガキを岸壁に降ろし、重さによって選別した。

出荷はコロナ禍の影響で1か月半ほど遅くなったが、同校の岩ガキは消費者の評判が良く、山本拓澄さん(16)は「お客さんに買ってもらえるまで大きくなり、うれしい」と喜んでいました。

～先輩から受け継ぎ、育て上げたイワガキを上場!～

海洋科学科2年生18名が、栗田湾内に設けている筏で育てたイワガキを京都府漁業協同組合本所へ上場した記事が、毎日新聞、京都新聞、読売新聞にそれぞれ掲載されました。

本校では、5年以上育成し大きくしたイワガキを出荷することとしていますので、今回上場したイワガキは、先輩から受け継ぎ大切に育てたものです。

来年以降にバトンを渡すため、海洋科学科の生徒は、丹精込めてイワガキを育てています。